

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470300530
法人名	有限会社 友の里
事業所名	グループホーム 友の里
所在地 (電話番号)	鈴鹿市長沢町1750-1 (電話) 059-371-6688
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 11 月 29 日(月)

【情報提供票より】 (H19年11月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 200,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(11 月 29 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴鹿クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲は田園風景が広がり、自然の移り変わりを楽しむことができる。毎日の散歩途中に取ったばかりの野菜を頂いたり、みかんを駕籠いっぱい事業所に持ってきてくださったり、柿の木を枝ごと持ち込んで事業所内で柿狩りを楽しませてくださるなど、日常的に近隣の方々の温かい支援と交流がある。管理者は運営者も兼ねており、夜勤のローテーションにも入るなど、いつも利用者と共にいて、管理者自らが手作りした布ぞうりを履いてもらうことで浮腫の改善に努めたり、お菓子作りや折り紙など、一人ひとりの能力に合わせた手作業を勧め、ADL(日常生活動作)を落とさない介護の実践と工夫を重ねている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での指摘は3項目あり、①権利と義務については、契約書に新たに書き加え家族にも説明している。②健康診断は全員に実施している③介護計画の見直しは、現在東京センター方式へ移行中であり、少しずつ書き加えながら見直しを進めている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	自己評価は職員一人ひとりが自己採点として取り組み検討し、管理者はまとめた上で評価の意義を理解するように周知している。玄関先にもいつでも誰でもが読めるように評価表が掛けてある。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2回開催されており、第1回は事業所の説明で終わったが、2回目からは内容も盛りだくさんで、災害のことや協力体制の確認など検討されている。自治会長や包括支援センターの方々の出席協力を得て今後2ヶ月に一度開催するように日時を決め、計画的に取り組む予定である。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会の開催や訪問時の声かけ、毎月のおたより発行や利用者の状態報告など、きめ細かい対応をしている。玄関先には苦情受付箱の設置もされているが、できれば、外部機関の苦情受付場所の明示を重要事項説明書と共にお願いしたい。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 野菜を頂いたり、みかんや柿をもつての気軽な訪問があるなど、普通に隣近所とつきあう感覚で地元の人の出入りがある。事業所で手作りのおやつを作ったときなどはおすそ分けをしたり、イベントに招待するなど、地域とは密着した関係になっている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来「楽しく、のんびり、その人らしく」を理念とし、それに沿った介護を実践してきているが、地域密着型に変更後の見直しはしていない。	○	日常的にはすでに地域交流を実践しているが、制度の変更に伴い「地域の中でその人らしく暮らし続けること」を主眼にした理念の検討を職員全員でしていただくよう希望する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りの際や月1回の定例会議において職員全員で話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会には加入していないが、近隣の人々との交流は日々行われている。小学校に行っている子を持つ職員の力を借りて、小学校や幼稚園の行事にも参加している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の見直しを行い実践している。今回の自己評価も職員一人ひとりが自己採点をし意義を理解したうえで、管理者がまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催日を第4土曜日と決めて、連合自治会長や、包括支援センターの職員、利用者と利用者家族の出席を得て、地域密着を旨とした議題を話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターや市の出先機関である地区市民センターへは友の里だよりを配布したり、センターが開催する講座などに利用者と共に出席して、交流を図る等の取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	カラフルな写真で構成された「友の里だより」と共に、個人あての請求書には、本人の現在の状態を書き込んで報告をしている。金銭管理についても、金銭管理ノートや重要物預かり控えなどによりきちんと管理され、定期的に家族に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には苦情受付箱を置き、いつでも家族の意見を受け付けるようにしている。運営推進会議や家族会でも意見を運営に反映させるよう努めている。	○	できれば、受付箱と重要事項説明書には、当事業所の受付のみではなく外部へ苦情不満等を表せる機会として、管轄市の担当課や国保連合会の苦情受付担当などの明記もしていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎月のお誕生日には家族に来てもらっているのと、年一回は敬老会を兼ねて家族会を開催し、その機会に職員の異動などについて報告をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は事業所独自の年間計画に従い実施している。管理者や介護支援専門員、看護師などが講師となりマニュアルなどで研修をし、感想を書いてもらうなどしてお互いに切磋琢磨している。外部研修については、職員の必要性に応じて受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの特養との交流を図っているし、県のグループホーム連絡協議会の会員として、月1回は他事業者との交流を図り、サービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間の体験入所をしていただき昼夜の生活を共にすることで、少しずつ馴染みの関係を築いている。家族とも相談してサービスを始められるように努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人がまずやれることを聞いてから見守りながら手伝いをするようにしているし、人生の先輩として見習うことが多くあり、逆に教えを請う場面もあり、共に学び支えあう関係になっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式による聞き取りシートを利用して思いや意向の把握に努めており、希望で近くのコンビニまで歩いて買い物に行ったり、家族と自由に携帯電話(家族からの預かり)を使って連絡できるように支援したりしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞きながら、介護計画作成担当者はきめの細かい介護計画を作成している。	
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しに当たっては、現在東京研修センターのアセスメントシートに段階的に移行中であり、職員間で話し合いながら少しずつ見直したところを記入している。基本的には6ヶ月に一度見直しているが、状態に応じては随時の見直しも行っている。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望を出来るだけ傾聴し応えるようにしているが、基本的には通院などの場合、家族とのコミュニケーションの場と捉えている。ただし、家族で対応できない時や緊急を要する時などには、家族の了解を得て通院介助等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医は在宅療養支援診療所の認可をうけていて24時間対応をしてもらっている。月1回の往診のほか、年1回は全員の健康診断を実施し、いつでもすぐに支援が受けられるような連絡体制をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師が2名いるので、家族の希望があれば終末まで看取る方針を職員会議の中で話し合い勉強をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導などさりりと自然な形で寄り添い、やさしく静かな言葉かけをされながら穏やかに誘導されるなど、その方の尊厳を大切にしている。個人記録などは事務所でファイル化されきちんと保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物に行きたい日や買いたいものなどをあらかじめ聞いておき計画的に買い物に行くなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人は台所に入って一緒に食事作りをしたり、キザミが必要な人には食べる直前に挟みで小さく切るなどの配慮をしている。食事介助用のエプロンもタオルで手作りされたもので、家庭の温かさが感じられる。また、近隣の方から頂いた野菜なども味噌汁や煮物などにうまく活用し、全員が食事を楽しめるよう支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には月水金と火木土とに分かれているが、希望があれば毎日入浴をすることも出来る。但し、冬場は一日おきにしており、入浴のない日は清拭を実施しているが、希望者には随時入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月1回、料理教室や生け花教室を開催し、自分の食べたいものを自分で作ってもらっている。生け花教室ではボランティアの先生を迎えて全員参加で開催している。当番制の役割もあり、自分が役立てることを認識してもらうように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日出かけているが、遠方へは年間計画で毎月一度外出先を決めてあり、花見や温泉入浴などを楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉から玄関先までは距離があり、玄関は二重扉で、室内は全体が見渡せ視界をさえぎらない造作になっており、利用者の気配や動向はいつでも掴めるので、鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防署との研修協議を行い消防訓練、避難訓練を年間計画に取り入れて実施している。連合自治会長からは運営推進会議においても協力の意を得ている。	○	周囲が田園で、夜間に地元の協力がタイミングよく得られるか、緊急時に対応が出来るか不安もあるので、職員による想定訓練をされることを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつは午前10時午後3時と夜8時にもあり、水分補給に心がけているが、特に午後8時のおやつでは自家製の梅ジュースを飲んでもらい、水分補給と体を温めることに心がけている。栄養バランスはよく考えられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花があちこちに活けてあり壁には利用者の塗り絵で作ったカレンダーを貼ったり、サンタの人形を飾るなど、季節を意識した空間作りに工夫をしている。リビングにはテレビを囲むようにL字型のソファがおかれ、真ん中にホットカーペットが敷かれ、それぞれが好きな場所で自由に過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い続けられてきた古い箆笥を持ち込まれている方や、花を活けたり家族の写真が貼ってあるなど、その人に応じてこまやかな配慮がされた居室になっている。		